

あーらーみ

昭和六十二年元旦号

発行者 村上青年会議所
編集者 村上青年
総務 村上青年

あけまして おめでとうございます

一新紀元 今こそ青砥のこころ —— 創立20周年を迎えて ——



理事長 川上 伊登志

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。村上青年会議所も本年記念すべき二十周年を迎えることになりました。

今、私達は青年会議所を村上に創立、継承して今日に導いて下さったOB諸先輩と、暖かい御理解御協力を賜りました地域の皆様方に心から感謝の気持ちを新たにしなければならぬと思っております。さて、私達の「まち」は現在、高速道路、新幹線のいわゆる高速交通体系から見放された「まち」であり、整備新幹線の計画線にもない地域であります。そして今、地域が問われ、私達自身が問われる時代へと突入し、地域の文化や産業構造を含む地域経済の確立、そして精神文化の高揚に心がけなければならぬ時代であると思っております。歴史的意義と地域産業の象徴の両面を備えた極めて具体的な私達の財産が本年産声をあげ、誕生しようとしております。それは10月に予定されておりますサーモンパークの全面オープンであります。鮭の文化をとらえたこの公園を私達地域住民はどの様な目で見つめ、かかわり、そして育んでいったらいいのかを真剣に考え、語り合っていく必要があるのではないのでしょうか。「そして私達村上青年会議所も二十周年を創始の原点に立ち帰るいい機会とし、社会的、時代的变化への青年会議所の対応と機能的適応を果たす元年である」と、あえて考えたいと思っております。「そして、自然の恵みに人間の英知を加え、計画産業の礎を築いた青砥武平次の創造のこころに今

♣青年会議所とは♣

青年会議所(JC)は、明るい豊かな社会の実現を理想として集まった20歳から40歳の青年の団体です。皆様と共に村上のことを考えていきたいと思っております。

こそ目を向け学ばなければならぬのではないのでしょうか。私達の地域の個性と可能性をしっかりと見据える英知と、これを実践化するねばり強い組織力が私達に要求されます。青年会議所は「明るい豊かなまちづくり」の為に、地域住民と行政との間の良きコーディネーターでなければならぬ。又、先導的役割を果たす運動推進体でなければならぬとよく言われます。大変大きな課題ではありますが、その責を果たす為にもメンバー一人一人努力、研鑽を重ねて前進する覚悟であります。



直前理事長 山貝 博

皆様あけましておめでとうございます。昨年一年間は皆様に大変お世話になりました。教育問題アンケート、三世代交流ゲートボール大会、市民サイクリング、明日の村上を考える会、など開催させていただきました。ありがとうございます。

今年村上青年会議所20周年でございます。このふしめ村上が日本にほれる三面川を礎としてサーモンシンポジウムを企画しております。この村上地方が日本で注目される場所になる要素が充ち分あると思っております。その意味から、すばらしいシンポジウムになるはずですので、皆様の多数の参加をおねがいたします。皆様のご参加を今年のお活躍を祈念いたしまして御挨拶いたします。



加藤 清司

明けましておめでとうございます。皆様にとりまして本年は更に良き年になりますように、心からお祈り申し上げます。

子供の頃、もう幾つ寝るとお正月と待ち遠しくて指折り数えて心を躍らせたものですが、年を重ねる毎に迎える気持ちも変わるものです。二十才台は理屈ばかり、正月など記号が変わるだけで特別意味があるものではない。正月、正月といつて大層にするなど息巻いていました。ただ十ヶ月間の禁煙をしましたが、その初日が何故か元旦からでした。三十才台後半の今、私は何も考えなくなりました。神仏を神聖な気持ちで拝み、後は正月のテレビ番組で大笑いし酒を飲みミカンを食べ寝て過ごしてあります。こんな私が村上青年会議所二十周年実行委員長を命ぜられてしまったのです。

さて、人が年を重ねる人生という歴史を作っていくように、村上という地も時の流れの中でさまざまな呼吸をし歴史を刻んできております。その長い歴史の中で昭和六十二年の元旦を、今生きる三万余人が共に村上市民として迎える事、これほどの偶然はありません。この縁こそ大切にしていかなければならぬと思っております。私達はこの大切な縁から一体何を生み出す事ができるのだろうかという事を期待に心を躍らせるだけでなく、理屈をこねるだけでもなく、創立二十周年の記念事業の中で自分達なりに淡淡と考へて行きたいと思っております。その折は是非御一緒していただきたいと思っております。最後になりましたが、村上青年会議所の礎を築いてくれたOBの諸先輩、そして日頃私達の活動に温かい御理解を下さる皆様、どうぞ本年も旧に倍する御指導、御協力をお願い申し上げます。

一新紀元 今こそ青砥の心

村上に今も語り継がれる、世界で初めて鮭の回帰性を持ってふ化事業を行なった青砥武平次の、その土着の発想とこだわりの意志を今一度心に持ち村上青年会議所20年の歩み、創始の精神をかみしめ新たな第一歩を踏みだそうという思いを込めて。

村上青年会議所
シニアクラブ会長

益田 孝

創立二十周年おめでとうございます。顧みますと二十年前、当時の青年商業クラブを解散して全国組織のJCに加入し、交流関係を深め見聞をひろめ地域社会の発展に寄与しようということから、新発田JCをスポンサーに、村上JCの設立にあたりました。発起人の一人として二十周年を迎えたことは誠に感慨無量なものであります。

今ここに村上JCの地域社会に密着した活動と隆盛は、過去二十年間の激動の間、会員各位の御努力と御活動の賜と、御同慶にたえません。心からお祝いを申し上げます、今後の益々の御活動、御発展をお祈り申し上げます。



村上市 朝日村 神林村 —— 県北振興元年 —— 首長は語る！

青年会議所活動に対し、日ごろから各市町村長の方々には御理解、御協力をいただいております。

昨年度は「明日の村上を語る会」広域観光構想等で貴重な御意見をうかがい、誠にありがとうございました。
年頭にあたり、村上市長、朝日村長、神林村長さんより御挨拶をいただきました。

年頭のあいさつ

村上市長 若林 久徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。私は、昨年五月市長の重責を担って以来、市議会はじめ市民各位の温かいご理解とご指導のもとに、先ずは大過なく市政運営を遂行することができました。ここに先ずもって厚くお礼申し上げます。どうぞありがとうございます。

新春を迎え、村上市を取り巻く環境は益々厳しさを増して来ますが、二万三千人市民の幸せのために是非共、着実な実践を積み重ね、少しでも明るいまちづくりのため、努力する誓いを新たにしています。

幸い昨年暮れには、ここ数年来最も有望の強かった「県北振興幹線道路」建設のための調査費が、県において予算化され、その実現のための大きな一歩を踏み出しましたことは、誠に喜ばしいことであり、この上は一日も早い完成を目指して出来る限りの協力を惜しまぬ所存であります。

また、観光の起爆剤として建設整備中の「三面川河畔鮭公園事業」は、四月には内水面漁業資料館、秋には公園が完成し全面オープンとなりますが、これにより誘客のための施設が一層整備されることとなりますので、これらと既存施設との有機的な活用をはかり、地域の活性化を図られるようにしなければならぬと考えております。

められてまいりました岩船港につきましても、本年から第七次五か年計画として引き続き整備されることになっております。

以上は、本年予定されております事業の主要なものとして申し上げますが、懸案となっております工業団地への企業誘致や、第三セクター「村上ビーチランド」の運営問題、海員学校のあと利用等につきましても、鋭意これが解決のため関係各位のご協力、ご尽力を仰ぎながら努力を傾注してまいり所存であります。

厳しい現今の社会情勢に対し柔軟に対応するため、昨年私が市長就任に際しまして表明いたしました「大胆に発想の転換を断行し、地域の活性化と市民福祉の増進を目指す」市政運営に、市民憲章の精神の定着をはかりつつ対処してまいりたいと、更に決意を新たにしておりますので、ここにこと改めましてご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

抱負

神林村長 佐藤 末吉

謹んで新年のお祝詞を申し上げます。厳しい話題で明け暮れた61年。特に景気の低迷は公共事業の伸びやみや、企業の冷え込みとして現われ、私共の生活に直接影響を招きました。

今年こそは地方の時代、地域発展の時代にふさわしい景気の回復に大きい夢を託し新年を迎えたところであります。まだまだ続くであろう国家予算の緊縮型は地方自治体にとっても同様であり、村民の行政に対する要請にどう答えて行くか、真価を問われる時でもあります。

神林村は「農業を中心とした産業の発展と健康でうるおいとゆとりのある福祉村」を建設することを基本目標として努力してありますが、生活に直結する主要村道の改良、舗装率は83%を超えました。生産基盤の整備では、石川地区(二四六ha)は61年度に完了する運びであり、又今年からは全村圃場整備(一八二五ha)のための全面工事に着手するなど、農業生産の基盤整備に村を挙げて取り組んでいるところであります。

21世紀は近い、県北地域は今、力強く躍動をはじめました。当面する最大の課題である、日本海沿岸縦貫高規格道路(県北振興幹線道路)の早期着工をはじめとするプロジェクトは県北地域の開発を考えるに当って欠くことのできないものであり、これからも強力で前進させなければならぬと考えます。それに私共のこの地域が自立を図るための経済基盤を確保しながら、基幹産業(農林、水産業)を振興させるための一・五次産業の育成、地域、産業おこしのための体制づくり、地域の活性化を重視した観光、レクリエーションの振興などを基本として、県北地域が一体となり協調し合いながら進めなければならないと考えております。特に村上市を中心としたこの地域は、豊かな自然環境、農林水産資源に恵まれており歴史的資源としての貴重な遺産が多くあります。これらを生かし「自然と歴史と新しい文化のかおる地域づくり」をキャッチフレーズに、お互いががんばるうではありませんか。

年の初めに、日頃考えていることをのべさせていただきましたが、62年は県北地域の開発元年となることを祈念し、筆を止めさせていただきます。

ごあいさつ

朝日村長 中山 与志夫

明けましておめでとうございます。希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、国・地方を通ずる厳しい財政状況の中で公共投資をテコにした地域振興が従来ほどに期待できなくなっている。今、各市町村と地域住民の知恵と工夫により自立的な発展の方法を考えていく時代になってきております。

農業は水田利用再編対策を機に水田中心から畑作・畜産を組み入れた複合営農形態に移行しつつあります。今年にはポスト三期対策の強化でさらに畑作物の販路まで見透した大型複合営農営農体制の整備を早急に進める必要があり

ります。

また、朝日村では昭和五十七年の上越新幹線の開通から都市との交流を積極的に進め、むらおこしに取りくんんでおります。

ふるさと会員制度の設立、そして観光誘客、小中学生の交換研修と、その内容は幅広く、今では産業文化面において大きな位置をしめるにいたりました。

昨春オープンしたみどりの里物産会館はこうした施策が功を奏し、県内外から大変な好評を博しています。

朝日村の緑豊かな大地と自然を活かし、産業の発展と教育文化の香り高い夢のある村づくりを目指して努力する所存であります。

今後、益々のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

新年にあたり皆様のご多幸をお祈り申し上げます。どうぞありがとうございます。

新しい街への出発

「まち」はいつたい誰のためにあるのでしょうか。答えは、そこに住む人々のためにあると誰もが答えます。それでは、「まち」はいつたい誰がつくるのでしょうか。答えは、そこに住む人々の手によりつくられると答えます。

私達市民は、この実現のために積極的にまちづくりについて考え、行動していかなければならないと思います。自分達の幸福につながる事だと信念を持って、

61年度社会観光委員長 遠山 紀芳

すでに、市報むらかみ、村上新聞等で報告されて居ります様に、昨年11月12日午後6時半から市役所4階大会議室において、村上市役所関係者の御協力に依り「明日の村上を語る会」が開催されました。この会は、「私達市民が故郷村上に

対し、どのような考え、どのような夢があるのか、市長を始め、行政にたずさわ

る方々と、互いに知り合い語り合う事に依って、故郷村上の未来を創ろう。」という主旨のもとで開かれ、七名の代表の方々から意見や要望を述べて頂き、これらに対して市長を始め行政関係者の皆様から答えて頂くという形で、3時間半にわたって約百名の傍聴者とともに、明日の

村上を、村上のまちづくりを語り合いました。

板垣宏司氏の観光文化都市村上の今後と、まちづくりの必要性から「株式会社まちづくり」構想の提案、鈴木一之氏の村上の知名度及び存在感を高める施策、温泉等自然を生かしたまちづくり、昼間

傍聴出来ない市民の夜の夜間市議会開催の提案、辻吉雄氏のお城山天守閣の建設、市内観光環状道路の整備と、アイデアのある瀬波温泉ピアーの施策、菅原丈昭氏の企業誘致の進捗状況の質問と、市全体で取り組む観光宣伝の方法として、雪国体験ツアー、大祭の一本化、東京原宿での獅子舞デモンストラクション

の企画提案、浅野勝喜氏の昭和57年度策定の観光レクリエーション構想計画の今後の運用と、サーモンパーク、伝統産業等との観光面での結びつき、磐舟柵復元の提案、中島次郎吉氏の魅力ある村上市と日本の新名所になりうるためへのコミ

ュニティマート構想、中央プラザ構想沿道区画整理型街路事業の必要性への提案、加藤清司君(青年会議所代表)の市民参加のまちづくりの方法として、まちづくり連絡協議会の発足の提案、と七名の代表が皆さん観光とまちづくりを主体とした積極的な意見と提案がなされました。これに對して市役所行政側からは、現実をふまえた上での可能性とまた手厳しい応答もありました。

予定時間がオーバーしたにもかかわらず、傍聴者からの意見を求めた所、坂爪勝也氏依り、「まちづくりに不可欠なもの」は「人づくり」であり、人づくりは、行政主導型より青年会議所の様な若い力が主導を進めたいかがでしようか。ぜひやって欲しいと思う。」という意見が出され、あらためて私達青年会議所にか

けられた期待に身の引き締まる思いと、尚一層の修練の必要性を感じました。

この会を開催するにあたり、質問者を含め2回の準備会を行いました。その中には今回の質問、提案にも出ていない素晴らしい意見がたくさんありました。

私達市民の意見を生かすためにも、今年度も是非、「明日の村上を語る会」が開催されるよう皆様方の御理解と御協力が

いただけますよう、明日の故郷村上、明るい村上のまちづくりに私達村上青年会議所は努力したいと思います。

この会を開催するにあたり、質問者を含め2回の準備会を行いました。その中には今回の質問、提案にも出ていない素晴らしい意見がたくさんありました。

私達市民の意見を生かすためにも、今年度も是非、「明日の村上を語る会」が開催されるよう皆様方の御理解と御協力が

いただけますよう、明日の故郷村上、明るい村上のまちづくりに私達村上青年会議所は努力したいと思います。

